

大井川源流部、 急ピツチで リニアア工事 進む

8月31日～9月1日にリニア問題検討委員会の浦添嘉徳委員長、竹本幸造事務局長、久保典子委員が南アルプスの現地調査を行った。

今回は資材置き場、作業員宿舎、トンネル掘削土（残土）置き場などの場所確認と、景観の現状の写真を撮り、資料として残し、今後、工事がどのような形で進むのか、自然がどうなるのかを記録しておこう、という目的での現地調査・視察だった。

1日目は、荒川三山登山でおなじみの沼平ゲートを通過し、燕沢付近まで車で移動、掘削土捨て場を2箇所ほど視察した。竹本事務局長は「一昨年来た時に比べ、周りの樹木が伐採され、かなり整地が

進んでいる」と話していた。

燕沢付近は、長さ800mにわたって樹木が伐採され、トンネルを掘削したものが65mの高さに積み上げられる計画だ。学者・専門家からは、この地域には、オオイチモンジ蝶の幼虫が繁殖するドロノキが群生していることから、心配する声もあげられている。

2日目は二軒小屋の田代ダムから奥に入る。トンネルの非常口（ずり出し口）、掘削土置き場、資材置き場、宿舎予定地等の視察が目的。蝙蝠岳（こぶちがけ）に行く登山者や釣り愛好家以外、一般登山者はほとんど通行しない。南アルプスの奥深い静かな登山道を歩いていく。1時間もしないうちに林道でオイル漏れの臭いを感じる。地面から臭気が立ち上ってきた、口をふさいで進む。

大井川の源流を西俣の奥へとさらに歩く。中部電力の二軒小屋水力発電所を過ぎ、さらに行く、突然、目の前に飛び込んできた光景にびっくり。なんと、道路がかなり奥

のほうまで、つくられている。それも10トンの大型ダンプが楽に通行できる、広い本格的な工事用道路だ。ここには、すでに手付かずの自然の姿はなく、大型の工事現場と化し、道路をつくったためにかけ崩れも起こしている。さらに道を先に進んでいくと、宿舎予定地に出た。この場所にはかわいいた花々が群生し、大きな花のアザミ等、その他何種類かの花が咲いている。だけどよく見れば、高山植物たちは土埃をかぶり、もはや気品を奪われ、惨めな姿を晒している。自然を愛する登山者ならだれでも心痛む光景だろう。

この群生地に既にマンホールが設置されていた。宿舎もしくは非常口（ずり出し用）と思われる。この山域の木はそんなに太くはない。が、さらなる敷地拡張のため容赦なく伐採されることだろう。工事開発の余りの速さに、ただただ驚愕（おどろか）してしまう。大井川源流の奥地で、リニア工事による、大自然破壊がすでに始

懸沢下流の道路工事現場
(二軒小屋から徒歩1時間20分のところ)



南アルプスリニア計画
JR東海公開の資料より



燕沢付近のトンネル掘削発生土置き場



中部電力 二軒小屋より 500メートル上流の場所



二軒小屋より1時間30分歩いた燕沢上流に、鉄筋コンクリートの立派な橋。この奥に作業員宿舎建設予定地

まっていたことに、南アルプスの自然保護運動の立ち遅れを感じた。

帰りに道に運搬作業の工事用大型ダンプ6台とすれ違おう。車の速度は我々登山姿の歩行者に留意してか、速度を落として走っていたが、すごい土埃をあたり一面に高く巻き上げて通り過ぎた。この土埃と排気ガスを伴うダンプは、本格的な工事が始まれば、二軒小屋付近で毎日480台、椹島付近で約330台が10年以上通過する事になり、土煙は山肌はかなり高いところまで舞い上がることだろう。自然

豊かな樹木も当然影響をうけ、排気ガスで立ち枯れするかもしれない。ダンプの騒音、振動によって樹木とともに生きている多くの生物はどうなることやら。

この山城の山肌はもろく、今でさえY字型の崩壊斜面があちこちに見られ、大型ダンプの通行による振動で山体そのものが、大きくずり落ちる恐れも感じた。

この巨大なリニア工事が進めば進むほど、南アルプスの自然は傷つけられ、自然破壊が膨らんでいく。沢淵の間題、工事関係者700人が常

駐し、サポートする人も含めると1000人以上の人が生活する生活雑排水の問題、掘削土処理の問題がある。南アルプスの最深部に、リニア工事村出現による夜間照明の問題、工事や生活騒音の問題は、小動物や昆虫にも大きな影響を及ぼす。どれ一つとっても自然破壊につながるようになる。

私たち登山者は自然をこよなく愛するが故、この豊かな自然を、現在の姿のままに残し、若い登山者に伝えていくことが使命ではないだろうか。

今回の視察を終え、いまこそ、「労山自然保護憲章」の旗を高く掲げ、全国の労山の仲間とすべての登山者に、この現状を知らせたい。そして、直ちに、「南アルプスの自然をリニア新幹線で壊さないで」の署名に取り組み、リニア反対の大きな運動のうねりを巻き起こすことを呼びかけたい。この近くを登山する場合、ぜひ工事現場を見て報告していただきたい。